



やまなしSDGsプロジェクト

「moritomirai（モリトミライ）」について

2023.6.20

山梨日日新聞社メディア企画局 三井 将也



自己紹介



三井 将也（みつい・まさや）
山梨県甲斐市出身、甲府市在住

大学卒業後の2005年4月、山梨日日新聞社に入社

10年間、編集局に配属され、新聞記者として報道
に携わる

2015年5月、広告局（現メディア企画局）に異動
となり、企画紙面制作、イベント実施などを担当



moritomiraiを企画した経緯

山梨日日新聞は2022年7月1日の創刊150年を機に、協賛社と共に進める広告企画で地域貢献したいと考え、県内の地域課題をリサーチしました。

山梨県は全国トップクラスの高い森林率ですが、県内の森林は荒廃が進んでいたため、森林をテーマにしたプロジェクトに取り組むことになりました。



森林の現状

昔は人々は、自分の森を持ち、薪や材木を取ってきて生活していました。しかし、近年は電気、ガス、安い輸入材の普及で、私たちは森と関わらない生活をしています。森林は放置され、荒廃林が増えています。



森林の荒廃とは？

荒廃林は手入れがされず、木と木の間隔が狭いため木が太く成長することができず、光が入らないため日中でも暗く、地面に下草が生えていません。細いため木材として活用することができず、倒木や、土砂災害の原因になってしまうこともあります。



整備された森林とは？

しっかりと間伐され、木と木の間が広いため木が太く成長でき、木材として活用できます。森の中に光が入り、下草が生え、生き物のすみかになります。木材を販売し林業が成り立つことで、森林資源の循環（持続可能な森林の活用）につながります。



ところで皆さんは、森林を所有していませんか？

森林（民有林）にも番地が付いていて、所有者がいます。

しかし、森林と関わらない生活が主流になり、世代が変わっていく中で、所有者が分からなくなる、所有者が森林を所有しているということを知らない、ということが起きています。



実は、私は所有しています…

正確には父が所有しています。

子どものころ祖父と一緒に森に行ってキノコを採り、「ここはうちの森だよ」と教えられたことを最近思い出しました。

父に聞けば分かると思いますが、今私はその場所が分かりません。

皆さんも、知らないうちに森林を引き継ぎ、森林荒廃の当事者になるかも知れません。



では、moritomiraiをご説明します

moritomiraiとは、「森と暮らす 未来を考える」という企画のコンセプトから名付けました。

キャッチコピーは「森の未来は 人の未来」

SDGsの観点から森林の持続的な活用を目指す取り組みであり、森林保全活動ではありません。



なぜ森林の荒廃が進んでいるのか

moritomiraiで、山梨日日新聞社が考える原因は2つ

1. 人々の森林への無関心
2. 森林資源の循環の必要性が理解されていない
(切って活用し、植え、育て、また切って活用する)



解決のために何ができるか？

moritomiraiの具体的なアクション

- 1、新聞などのメディアを活かした情報発信
→新聞社の強みを活かしたアクション
- 2、森林に関し、行動変容につながる体験・経験の拡散
→新聞の枠を超えたアクション



新聞社の強みを活かしたアクション

新聞での情報発信

これまでに、月に1回1年間掲載を続けた、山梨の森林の現状を伝える「月刊 moritomirai」、8ページの特集など数々の新聞記事を発信してきました。



新聞の枠を超えたアクション①

カードゲーム「moritomirai」

- 森林に無関心な方に、関心を持ってもらうためのツールです
- カードゲーム「2030SDGs」を開発したプロジェクトデザイン様（富山）に制作を依頼し、共同で県内の森林関係者に取材した上で、開発しました。

※開発のきっかけは、アドヴォネクスト・井上社長のアドバイスです！
（ルールについては時間の関係で割愛させていただきます）



カードゲーム「moritomirai」の展開

1、学校や一般向けの体験会実施

小学校を中心に、県内では月に2～3回程度開催しています。



2、企業との連携

今年は日本たばこ産業（JT）様、山梨トヨペット様の協賛で、カードゲーム＋森林散策のイベントを実施します。



カードゲーム「moritomirai」の体験者数は？

2022年11月にプレリリースして体験会をスタートし、24年3月までの1年5カ月で、23都府県で106回体験会を開催し、延べ3091人がプレーしました。

昨年度の体験者数が最多だったのは、山梨県ではなく…

岐阜県でした！

岐阜県 1034人（「国立乗鞍青少年交流の家」様による実施が中心）

山梨県 959人



新聞の枠を超えたアクション②

県産ヒノキ材を使ったプロダクト
「morini シリーズ」

- 森林資源の循環の必要を知ってもらうために木製品を開発しました。
- 世界的なプロダクトデザイナー 深澤直人氏（甲府市出身）にデザインを依頼。
- 全6種類をデザインしてもらい、3種類が販売中です。



moritomiraiの特徴

それは、報道が仕事のメディアが地域課題の当事者として、課題解決に向けて具体的なアクションを起こしているところです。

山梨日日新聞社は、本当の意味で地域に必要とされる会社を目指し、プロジェクトを進めています。



moritomiraiの数値目標

2030年までに、

カードゲーム体験者数1万人

カードゲームを進行する公認ファシリテーター500人

を目指し、活動を進めています。



今後の展開について

カードゲームの7月の予定は、

- ・ 7月10日（水） 14:00～16:00、オープン体験会（会場：山日YBS本社地下ホール）

→ファシリは井上社長です。

- ・ 7月14日（日） 14:00～16:00、VF甲府とのコラボ体験会（会場：小瀬スポーツ公園体育館内プレイルーム）

→ファシリは山梨住みます芸人いしいそうたろうさん

プロダクトは今夏新たなラインナップを加え、販売により力を入れていきます。





最後に

私事ですが、6月末で山梨日日新聞社を退社し、新たな道に進むことになりました。

しかし、moritomiraiはチームで進めているプロジェクトです。これからも森林の持続的な活用を目指して進んでいきます。

引き続き、山梨日日新聞社とmoritomiraiをよろしくお願いいたします。

